

校内研修計画

甲州市立神金小学校

1 学校課題

単学級のため、友人関係が固定化している面もあるが、休み時間や放課後には学年を越えた交流も多く、諸活動でも上級生が下級生の面倒を見ている姿をよく目にする。学習面では、個人差はあるが真面目な態度で学習に取り組み、与えられた課題に対しては前向きに取り組もうとする児童が多い。昨年度、国語科の説明的文章の指導における研究や授業実践を通して、読解力を高めるための手立てが少しずつ明らかになり、児童の読解力も向上し始めてきた。しかし、自分で考え、自分で判断し、実行していく態度や問題を解決するための能力や根拠に基づいた論理的な考え方などがなかなか出来ないなど課題も挙げられる。

研究を推進するにあたり、NRT検査やQ-U検査等を実施する中で児童の実態をよく把握し、不足している力や指導が必要な点を明らかにしていく必要がある。また、それに基づいての基礎的・基本的な知識・技能の習得に向けた指導の改善、思考力・判断力・表現力の育成をめざし、共通理解のもとで取り組みを焦点化させていくことが重要であろう。

2 研究主題

「自ら考え、進んで学習に取り組む児童の育成」

～国語科における単元を貫く言語活動を通して～

【研究目標】国語科の学習課程において、単元を貫く言語活動を取り入れることで、子どもたちの思考力・判断力・表現力等を育むことをめざす。

3 主題設定の理由

学習指導要領では、各教科において基礎的・基本的な知識・技能の習得を重視した上で、観察・実験やレポートの作成、論述など知識・技能を活用する学習活動を充実し、思考力・判断力・表現力等を育成することが求められている。本校の児童をみると、自分で考え、自分で判断し、実行していく態度や問題を解決するための能力や論理的に思考する能力に課題があるといえる。この課題を解決していくには、学習指導要領で求められている知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力を育成することが必要であると考えられる。

昨年度は、国語科の説明的文章において、基本的な読みから発展的な読みへと深めていく指導について探る研究を進めてきた。各学年の説明的文章の教材分析をし、指導の工夫や系統性を探ることで「読解力」の向上を目指した。さらに、「言語活動の充実」を図るため、国語科において「単元を貫く言語活動」を仕組んだ。また、日常の活動の中で言語環境を整備し、児童の毎日の生活の中から「読解力」を高めていくことにも取り組んだ。これらの実践により、課題の追求や「論理的に思考し表現する力」や「伝え合う力」が少しずつ定着するようになってきた。(2013校内研紀要)

本年度は、その研究を継続しながら、「授業づくり」については、これまでの成果としての単元を貫く言語活動の学習課程を基本とし、追試していきながら「自分の考えを持ち、表現する」ことができることを目指していきたい。その評価については、「思考と表現」の関連に着目し、「思考したことをきちんと表現できているか」という視点にたって看取っていくことが重要と考えられる。

また、校内研修・学習会においては、甲州市「確かな学力」育成プロジェクトの「授業づくり・授業改善」と「学級づくり・集団づくり」と関わりを持たせながら進めていきたい。授業づくりの土台となる「学級づくり」についても、「確かな学力」プロジェクトの取組を活用し、各学級で取り組んでいくようにしたい。

これらの研究、取り組みを進めることで、自ら考え、進んで学習に取り組む児童を育成することにつながるのではないかと考え、本研究主題を設定した。

4 研究の具体的内容と方法

(1) 研究内容

1. 授業づくり
 - (1) 児童の実態把握，学力検査の実施と分析
 - (2) 授業の工夫や改善のための指導法を探るための理論研究・学習会
 - (3) 主体的に取り組む態度・意欲を育てるための評価の工夫
 - (4) 授業実践
2. 集団づくり（授業づくりを成立させるための土台づくりとして取り組む）
 - (1) 日常的な学習環境づくり
 - ・「朝の基礎学習」の指導内容と指導法の統一
 - ・家庭学習や学習規律の確立
 - (2) Q-U調査の実施（2回）と調査の全職員による分析
 - ・学級の実態や課題を明らかにし，指導目標や指導方針を明らかにする。
 - (3) 分析を生かした学級集団づくりへの取り組み。
 - ・発達の段階に合わせ，互いに認め合い高めあえる活動を設定し，評価する。

(2) 方法

1. 児童の実態把握と分析をするために講師を招聘し，学習会を行う。
2. 教材分析表（校内研紀要 2013）を基に，検証授業実践をし，互いに学び合う場を持つ。
3. 低・高のブロック構成で，検証授業・一人一実践に取り組む。
4. 児童のワークシートや発言，職員の観察アンケート等により，関心意欲等の変容を捉える。

5 年間校内研究計画

研究主任 広瀬きよ美

回	月／日	内 容・関連行事	担 当
1	4 / 4	・今年度の研究の方向性について	研究主任
2	4 / 9	・今年度の研究のテーマ，内容，計画について	研究主任
3	4 / 30	・今年度の研究のテーマ，内容の確認 ・学習規律，家庭学習について	研究主任
4	5 / 14	・ブロック研究会（k-13法）	ブロック長
5	6 / 11	・研究テーマに関わる学習会《T・C要請》	研究主任
6	6 / 25	・ブロック研究会	ブロック長
7	7 / 16	・ブロック研究会	ブロック長
8	8 / 18	・教育課程説明会環流報告会，授業実践①の検討	研究主任
9	9 / 3	・ブロック研究会	ブロック長
10	9 / 10	・授業実践① 《T・C要請》	授業者
11	10 / 15	・ブロック研究会	ブロック長
12	10 / 29	・授業実践② 《T・C要請》	授業者
13	11 / 5	・授業実践③	授業者
14	11 / 19	・授業実践④	授業者
15	12 / 10	・授業実践⑤	授業者
16	1 / 28	・授業実践⑥	授業者
17	2 / 13	・校内研究成果と課題について	研究主任
18	3 / 4	・研究紀要作成・製本	研究主任